

チュートリアル¹の伝播と変容
——イギリスからオーストラリアの大学へ

はしがき

「学ぶ」とは、どういうことだろう。未知の世界を知ること？新しく知ったことを覚えること？それとも…。

本書は、イギリス高等教育において伝統的な教授形態であるチュートリアルについて書いたものである。チュートリアルとは、少人数の環境で、学生が書いてきたエッセイをもとに、学生とチューターがディスカッションをし、その中で学生の思考が深められていくという学びのスタイルである。

子どもの頃の私は、模擬試験や学校のテストで「良い点を取る＝勉強の楽しさ」だと思い込んでいた。

ところが、大学受験を控えたあるとき、ある人から「大学は、好きなことを学ぶところなんだよ」「面白いから学ぶんだよ」と言われ、期待に胸を膨らませたのを覚えている。

しかし、大学に入った私を待っていたのは、「ふわっ」とした学生生活だった。のめりこんでいけるほどの「学び」に出会えることはなかった…。

そんな私に転機が訪れたのは、大学3年生のとき、留学先のオックスフォード大学で受けたチュートリアルという授業だった。チュートリアルは、これまで私が受けてきたような、受動的な学習ではなかった。何も準備をせずにチュートリアルに臨んだある日、「あなたが事前に（本を読んだり講義を聴いたりして）準備をしておかなければ、今日勉強することは何もないわ」と、チューターから言い放たれ、追い返されたときの衝撃！チューターの持っている知識を伝授されるのが授業ではないという

驚き！

自分がいろんな本を読み、講義を聴き、そこから学んで考えたことをもとに、チューターとディスカッションをする。チューターの考えが全て正しいというわけでもなく、チューターと自分の考えを二重らせんのように高めていき、新しいものをつくる、化学反応のような体験！

それが、チュートリアルだった。

それまで私が経験してきた「学び」とは違うスタイルの学びが、世の中には存在することを知った。

日本に帰ってきてからその体験を話しても、「オックスブリッジだからできることでしょ？」と言われた。確かにチュートリアルは、同窓会の力が強く、卒業生 (alumni) からの資金的なサポートもあるからこそ成立する、少人数の学びのスタイルなのかも知れない…。

そう考えていた矢先、オーストラリアの大学にもチュートリアルなるものが存在することを知った。しかもオーストラリアの大学では、イギリスのオックスブリッジに比べて、クラス規模の大きなチュートリアルが展開されていた。

一見普通の授業 (class) のように思われる、このオーストラリアの「チュートリアル」は、どうしてチュートリアルと呼ばれるのか？そこに、オックスブリッジに端を発するチュートリアルのエッセンスは脈々と受け継がれているのだろうか？

そんなことが知りたくて始めたのがこの研究だった。

この研究を続けていくうちに、日本の高等教育では「アクティブ・ラーニング」なるものが流行し始め、今では大学のみならず高校段階においても積極的に導入が図られている。

確かに今までの講義中心の受動的な教育に比べれば、一見すると学生が文字通り「アクティブ」に活動している感はある。しかし実際に、学生たちの学びはどこまで深められているのだろうか。そもそも、学生そ

れぞれの問題関心は異なっているのに、どうしてグループ・ワークで「学生の問題関心を深めた」ことになるのだろうか。「学ぶ」ということの根本的な意味を問おうとしているのも、この研究の特徴である。

本書では、チュートリアルのエッセンスをみる上で、その歴史的経緯にも触れているが、読者の興味・関心に合わせて、面白そうと思うところから読んでいただければ幸いである。

そして本書が、「学ぶ」という喜びにまだ出会えていない若者や、自ら「考える」学生を育てようと日々教育に邁進されている大学関係者の手にとられ、主体的に学ぶことの楽しさ・面白さを知るきっかけの一つになってくれれば、筆者としてこれほど幸せなことはない。

2017年3月

竹腰 千絵

目次／チュートリアルの伝播と変容——イギリスからオーストラリアの大学へ

はしがき (i)

序章 3

第1章 高等教育におけるチュートリアル 13第1節 イギリス高等教育における
チュートリアルの位置づけ 13

- 1 イギリス高等教育の歴史の変遷 (13)
- 2 イギリス高等教育の教授形態におけるチュートリアル (16)

第2節 高等教育の興りと教授形態 20

- 1 大学の型とカレッジ制 (21)
- 2 パリからオックスフォードへの移動 (24)

第3節 オックスブリッジにおける
チュートリアルの歴史の変遷 26

- 1 カレッジの創設とチュートリアル (27)
- 2 優等学位の導入とチューターの学問的指導への傾倒 (28)
- 3 教養教育論争と科学科目の導入 (30)
- 4 カテキズム的少数教育からソクラテス的チュートリアルへ
——プライベート・チューターからの影響 (32)
- 5 4パターンのチュートリアルの捉え方 (37)

第2章 イギリス高等教育におけるチュートリアルの伝播と変容 53第1節 ロンドン大学・市民大学への
チュートリアルの伝播と変容 53

- 1 オックスブリッジからロンドン大学へ (53)
 - (1) ロンドン大学の設立と理念 (53)
 - (2) 教育機関としての新生ロンドン大学へ (56)

(3) ロンドン大学へのチュートリアルの伝播 (57)	
2 オックスブリッジから市民大学へ (60)	
(1) 市民大学の設立と理念 (60)	
(2) 市民大学へのチュートリアルの伝播 (62)	
第2節 新大学へのチュートリアルの伝播と変容……………	70
1 オックスブリッジから新大学へ——新大学の設立と理念 (70)	
2 新大学へのチュートリアルの伝播 (73)	
第3節 イギリス国内における チュートリアルの要素の変容……………	78

第3章 イギリスからオーストラリアへの チュートリアルの伝播と変容…………… 93

第1節 オーストラリアにおける大学の興り……………	93
1 シドニー大学の創設 ——ロンドン大学モデルからの出発 (93)	
2 改革後のオックスブリッジ・モデルの影響 (96)	
3 講義への出席の義務づけ (99)	
4 メルボルン大学の創設 ——クイーンズ大学モデルからの影響 (101)	
第2節 オーストラリアの大学への チュートリアルの伝播……………	103
第3節 オーストラリア国内における チュートリアルの伝播と変容……………	107
1 オーストラリア内でのチュートリアルの伝播と変容 (107)	
2 戦後の高等教育システムの拡大 (111)	
3 学習環境と教授形態 (112)	

第4章 現代のオーストラリアにおけるチュートリアル 125

第1節 オーストラリアにおける 一般的なチュートリアル..... 125

- 1 オーストラリアにおけるチュートリアルの実態 (126)
 - (1) チュートリアルの目的と意義 (126)
 - (2) チュートリアルの位置づけと規模 (127)
 - (3) チュートリアルの形態 (129)
 - (4) 学生の役割 (130)
 - (5) チューターに求められるものとその役割 (131)
- 2 チューターへの研修とその背景 (134)
 - (1) チューター相互授業観察 (134)
 - (2) 大学への移行期におけるチューターの存在と役割 (136)
- 3 オーストラリアの一般的なチュートリアルの要素 (139)

第2節 新しい形の「チュートリアル」の実践..... 143

- 1 対面型チュートリアルとウェブ・チュートリアルの併用
—西オーストラリア大学における実践 (143)
- 2 講義と「チュートリアル」の融合
—クイーンズランド工科大学におけるレクトリアルの実践 (146)
- 3 ウェブ・チュートリアル
—南クイーンズランド大学における実践 (151)
- 4 新しい形の「チュートリアル」の要素 (153)

第3節 形態の変化を超えて維持されるチュートリアルの要素... 155

終章..... 165

参考・引用文献 (173)

あとがき (177)

索引 (183)

著者紹介

竹腰 千絵 (たけこし ちえ)

1981年 大阪府生まれ

2002年 オックスフォード大学留学 (British Studies 専攻)

2005年 大阪外国語大学外国語学部地域文化学科 (英語専攻) 卒業

2013年 京都大学大学院教育学研究科博士後期課程 単位取得退学

現在 沖縄カトリック中学高等学校教員

専攻 比較教育学、博士 (教育学)

主要著書・論文

『オーストラリアの教育改革—21世紀型教育立国への挑戦—』(共著、学文社、2011年)、『オーストラリア・ニュージーランドの教育—グローバル社会を生き抜く力の育成に向けて』(共著、東信堂、2014年)、『トランスナショナル高等教育の国際比較—留学概念の転換』(共著、東信堂、2014年)、「イギリス高等教育におけるチュートリアルの伝播と変容」『京都大学大学院教育学研究科紀要』第54号 (京都大学大学院教育学研究科、2008年) など。

Transition and Transformation of the tutorial system:
from British to Australian universities

チュートリアルの伝播と変容——イギリスからオーストラリアの大学へ

2017年3月25日 初版第1刷発行

[検印省略]

* 定価はカバーに表示してあります

著者 © 竹腰千絵 発行者 下田勝司

印刷・製本 中央精版印刷

東京都文京区向丘 1-20-6 郵便振替 00110-6-37828

発行所

〒113-0023 TEL 03-3818-5521 (代) FAX 03-3818-5514 株式会社 **東信堂**

E-Mail tk203444@fsinet.or.jp URL <http://www.toshindo-pub.com>

Published by TOSHINDO PUBLISHING CO.,LTD.

1-20-6, Mukougaoka, Bunkyo-ku, Tokyo, 113-0023, Japan

ISBN978-4-7989-1421-3 C3037 © Takekoshi Chic